

秦野市立広畑小学校

研究テーマ：共に学び、考えることを楽しむ算数学習

1 実践の目的

本校の児童数は120名程度で、全学年が単学級である。クラス替えがなく一緒に過ごす時間が長いため、お互いのことをよく理解し合い、仲よく学校生活を送っている姿が見られる。しかし、自信がもてずに新しいこと挑戦することが苦手だったり、努力して成功した体験が少なかったりするように感じられる。

そこで、算数科を通して挑戦したり継続して努力したりする児童を育てていきたいと考えた。「やってみよう」という気持ちをもつためには、まずは「楽しそう」と感じる事が大切である。児童が意欲的に学習に取り組むことや諦めずに思考することを目指し、「考えることを楽しむ算数学習」というテーマを設定した。また、個人の活動のみでは、消極的になってしまうのではないかと考え、「共に学び」をテーマに加え、ペアやグループでの学習を取り入れることとした。

2 実践の内容

(1) 校内研究の体制

講師…明星大学客員教授兼

明星小学校校長 細水保宏氏

東海大学 児童教育学部教授

神戸佳子氏

教職員を3つのグループに分け、教材研究や指導案検討に取り組んだ。ブロックごとに公開授業を行い、授業後には全体研究会を開き改善点などについて話し合った。

Aブロック…1・2・3年・教務

Bブロック…4・5・6年

Cブロック…特別支援学級

(2) Aブロック 公開授業

1年「長さ」

いろいろな比べ方を考えよう

1. 前時の復習をし、本時のめあてを考える。
2. 自分の机の横の長さや高さの比べ方を考える。
3. テープを使って2つのものの長さを比べる。
4. 長さを比べる方法を整理する。
5. 身の回りの物の長さや高さを比べる。
6. ふりかえりをする。



(3) Bブロック 公開授業

5年「速さ」

道のりも時間も違うときの速さの比べ方を考えよう

1. 本時の課題を確認する。
2. 3種類の動物の順位を予想し、その理由をペアになって伝え合う。
3. どんなことを意識すれば求められるのかを考え、比べ方の見通しを持つ。

4. ホワイトボードに自分の考えや式や言葉などを使って書き、解き方を考える。

【個人】

5. 速さの比べ方を説明する。【ペア】→【全体】

6. めあて（課題）のまとめをする。

7. ふりかえりをする。



(4) Cブロック 公開授業
特別支援学級「たし算」

さかなつりゲームをして、点数を計算しよう

1. ウォーミングアップ(カード並べゲーム)
2. 本時のめあてを考える。
3. さかなつりゲームをし、釣った魚の点数を計算する。
4. ふりかえりをする。



3 実践の成果

(1) 授業づくりのポイント

- めあてを大切に、ゴールの意識をもって計画する。(板書計画を立てる。)
- 児童にとっての想定外に出会わせ、探求心をくすぐるような教材を用意する。
- 教師が授業をコーディネートし、児童同士の言葉をつないで学習を進めていく。

•児童が自分の言葉で説明する機会を大切にする。

•問い返し(本当?なんで?えっ?!)をし、もう一度考える機会を作る。

•ほめたり認めたりしながら授業を進め、ほめた言葉を字として板書に残し、児童が達成感や満足感を味わえるようにする。

•問題を理解するためにも図を書いて表す習慣をつける。

(2) 全職員での指導案検討

•全職員で指導案検討を行ったことで、目標や活動内容を共通認識した上で公開授業を参観することができ、その後の全体研究会で活発な意見が出てよかった。

4 今後の展開

(1) 今後の研究の方向性

授業の組み立て方や教師の発問の仕方などを学ぶことができたが、今後も実践を重ねてさらに深めていきたい。来年度も継続して算数学習についての研究を進めていきたい。

(2) 残された課題への対応

児童が自分たちで学習を進めていく経験が少ないため、戸惑いながら進めている様子が見られた。繰り返し取り組むことで自信をもって取り組めるようにしたい。また、基礎的な計算力や読解力が身につけていない児童が見受けられるため、学校全体で楽しく学習に取り組む時間を作ることにしても検討していきたい。